

秋田県警察の機能強化を考える会（第7回）開催結果

- 1 開催日時
9月21日午後4時10分から午後5時5分までの間
- 2 開催場所
秋田市山王五丁目9番6号
ふきみ会館
- 3 会議の概要
委員による意見交換を行い、委員相互で提言内容の最終確認を行い提言が取りまとめられた後、提言授受式を開催した。
- 4 意見交換の概要
 - (1) 目指す姿
 - ・ 犯罪を見逃さず制圧するという力強い警察力とともに、住民の善行にも目を向ける頼もしい県警察になることを願っている。
 - ・ 県民にとって警察官は憧れであり、最後の砦であってほしい。
 - (2) 人的基盤の強化
 - ・ 犯罪が高度化しており、ネットワーク利用犯罪や詐欺は、次々と手口等を変え巧妙化している。限られた人員を効率的に運用し、強化を図っていただきたい。
 - ・ 人的基盤を強化するためにも、ワークライフバランスの実現や女性職員の活躍に向けた更なる取組の推進を図っていただきたい。
 - (3) 警察組織の体制強化
 - ・ 限られた人員をどれだけ効率よく運営すれば良いのか、警察署の体制はどうすべきなのかが一番難しい問題であった。新たな犯罪や課題への対処も求められる。
秋田県全体が抱える人口減少という課題もあるが、人口が減少するから警察官を削減するという考えではなく、地域の特性に応じた高齢者への取組や管轄面積に応じた体制確保をよく検討して、効率よく運営していただきたい。
 - ・ 機能強化のためには、既存の枠組みにとらわれず、必要などころに警察力を集中させるような「選択と集中」による組織の見直しが必要であるが、それによって地域の住民サービスを低下させてはならない。
 - (4) 積極的な情報発信
 - ・ 県民の安全・安心を守るという県警察の究極の目標を成し遂げるためには、何よりも県民の信用と信頼が大切である。警察が直面している様々な事柄を積極的かつ戦略的に広報することによって県民の理解を得ることができる。また、県民とともに秋田を守るという姿勢もこの先欠かせない。
 - ・ 犯罪認知件数や交通事故発生件数等だけでなく、県民の生活に寄り添った活動についても広報を行うなど、数字に見えない働きや努力を発信していくべきある。
 - ・ 地域行事に警察署員が参加した際、工夫に富んだ活動が子供達に大好評であった。今後も地域住民との関わる機会を多く持っていただきたい。

- ・ 広報は人材確保にもつながるはずである。学生に対して県警察の活動を活発に発信していただきたい。
- (5) 産学官民の連携強化
- ・ 秋田県の重要課題に対しては、警察が単独で活動するだけでなく、県、市町村、自治体等との適切な役割分担の下、協力・連携していく必要性が改めて認識された。
 - ・ 災害がなく安心して住める県と言われていた秋田において、大雨、台風、地震といった自然災害による被害が発生したり、北朝鮮のミサイルが日本上空を飛行するなど、いつどこでどんな事態が発生するかわからない時代となった。県民の安全安心を守るのは警察だけではなく、関係機関が連携して危機感を持っていかなければならない。
- (6) 秋田県警察の機能強化を考える会を通じた意見等
- ・ 県警察がどのような活動を行い、どのようなことに苦労しているのかを知る良い機会となった。
 - ・ 今まで分からなかった警察の機能や役割を内部から見ることができた。また、警察署の視察では住民サービスのために一生懸命に署員が活動していることを知り、警察の役割を改めて知ることができた。
 - ・ このような会を立ち上げ、警察の機能をより良くしていくための方向性を話合うことで警察の労苦を理解した。県民の皆さんに伝えていきたい。
 - ・ 秋田県は少子高齢化の最先端を走っており、これから様々な課題に直面すると思う。この会で取りまとめた成果が全国、特に地方の手本となるよう警察活動につなげていただきたい。

5 提言授受式の概要

秋田県警察の機能強化を考える会小笠原直樹座長が「秋田県警察の機能強化に関する提言」の骨子を説明した後、扇澤宏昭警察本部長に対して同提言が提出された。